

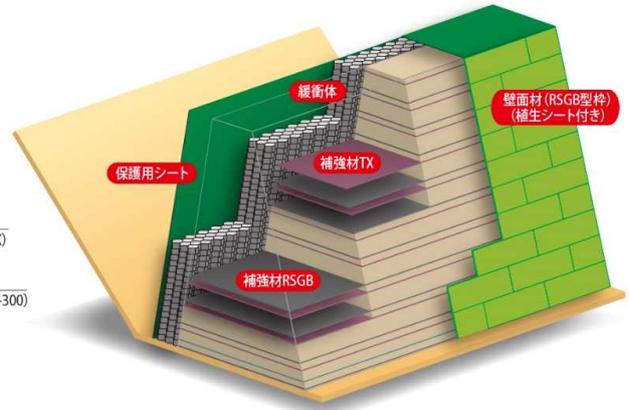
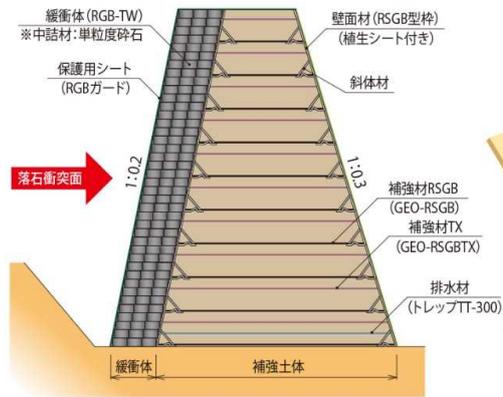
技術概要書（様式）

※別紙2

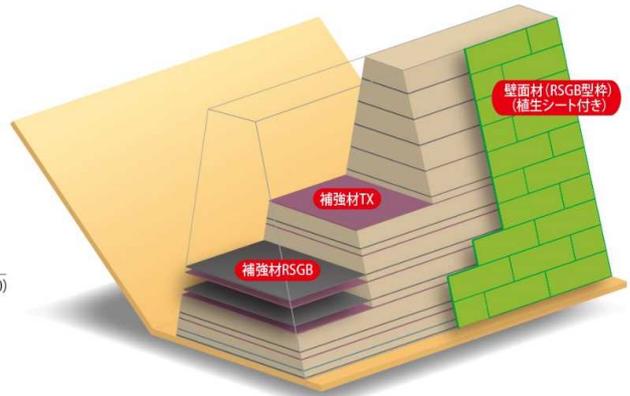
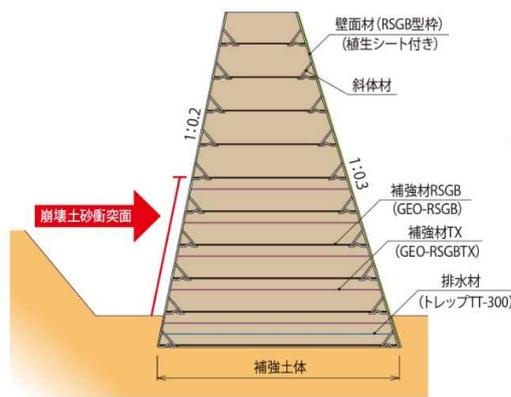
技術分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質 (該当する分類に○を付けてください)		
技術名称	Geo BANK工法	担当部署	事務局
NETIS登録番号	HR - 100004-A	担当者	渡邊 忍
社名等	Geo BANK工法研究会	電話番号	025-201-9157
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>近年、我が国における自然災害は増加傾向にあり、落石対策や崩壊土砂対策、雪崩対策等の対策は、ハード、ソフトの両面から喫緊の課題となっている。国や地方自治体では、これらに投資できる予算は限られており、対策必要箇所の優先度や重要度に応じて実施せざるを得ないのが実情である。このような社会情勢とニーズを踏まえ、ジオグリッドを用いた補強土壁を構築し、落石対策や崩壊土砂対策、雪崩対策に対応できる工法として開発した。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>ジオグリッドを用いた補強土壁を構築し、落石、雪崩、崩壊土砂から保全対象物を防護する工法。Geo BANK工法には3つの分類がある。落石に対応するRGB工法、崩壊土砂に対応するEGB工法、雪崩に対応するSGB工法である。落石に対応するRGB工法は、高さ37mの自然斜面を使用して実際に17.1tの重錘を補強土壁に直撃させて性能照査をした工法である。RGB工法は落石エネルギーに応じて3つのタイプがあり、現場の諸条件により選択する。補強土壁を用いていることから、設計条件を満たすことができれば、現地発生土の有効利用を図ることができ、脆弱な地盤に設置する際には、コンクリート構造物に比べて地盤対策費を低減することができる。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>対応する使用用途により種別を選定し、待受け式の補強土壁を設置することで、保全対象物を防護することができる。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>【RGB工法】: 落石防護補強土壁工法 落石エネルギー5000kJ程度まで対応可能(現場諸条件による)</p> <p>【EGB工法】: 崩壊土砂防護補強土壁工法 崩壊土砂に対応可能(現場諸条件による)</p> <p>【SGB工法】: 雪崩防護補強土壁工法 雪崩に対応可能(現場諸条件による)</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 5 件 (九州 0件、九州以外 5件) 自治体 31 件 (九州 2件、九州以外 29件) 民間 1 件 (九州 0件、九州以外 1件)</p>		

6. 写真・図・表

【RGB工法 概要図】



【EGB工法 概要図】



【SGB工法 概要図】

